



伊勢ヶ濱親方
(第63代横綱・旭富士)

<プロフィール>

伊勢ヶ濱 正也(いせがはま せいや)

本名:杉野森 正也

1960年生まれ、青森県出身。

1981年に初土俵。1983年3月場所で新入幕、1990年に第63代横綱となる。幕内在位54場所、幕内優勝4回。引退後は親方として、横綱・日馬富士と横綱・照ノ富士を育て上げた。

多くの関取を育てる名伯楽、伊勢ヶ濱親方。
現役時代は第63代横綱・旭富士としてファンを沸かせた。
数々の名勝負の舞台となった国技館への思いを聞いた。



国技館

東京都墨田区
横綱1丁目3-28

管理開始:1990年9月

管理内容:設備管理業務
管 轄:首都圏東支社

写真提供:日本相撲協会

満員御礼のなかで重ねた真剣勝負

1985年の1月場所、初めて両国国技館に足を踏み入れたときに抱いた印象は、とにかく大きくて広いなあ、ということでした。それまで大相撲興行が開催されていた蔵前の国技館よりも広いし、土俵がぐると客席に囲まれている。佇まいも立派で、身が引き締まるような思いがありました。満員のお客さんのなかで相撲ができることはたいへん光栄でしたね。

ただ、実際に場所が始まると、会場がどこかということはありません。とにかく相撲に集中していて、朝、控室に入り、時間が来たらその日の一番を目の前の土俵でとる。相撲のこと、勝負のことしか考えていない日々でした。

大相撲の半分は地方開催ですが、いま改めて思い返すと、幕内初優勝も現役最後の相撲も両国国技館の土俵でしたね。こけら落としとなった1985年1月場所初日に横綱・北の湖関に土をつけた一番もありました。実は北の湖関は私が相撲の世界に入るきっかけとなった、あこがれの人なんです。この場所で北の湖関は引退してしまったこともあり、寂しい気持ちとともに誇らしい思い出になりました。

引退して親方になってからのほうが、両国国技館のことをよく知ることになりました。会議室があったり、地下では焼き鳥が作られていたり、歩き回ってみるといろんな場所があるんだと。パーティー等の際には普段土俵がある場所が平たくなって、印象がガラリと変わるのもおもしろいですよね。

2021年には還暦土俵入りを両国国技館で披露しました。コロナ禍で一度は延期になったのですが、無事に執り行うことができたのは良い思い出です。40年間、国技である相撲の聖地としてその伝統と文化を支え続けてきた両国国技館。これからも真剣勝負の舞台として、この地にあり続けることを願っています。



現役時代、両国国技館での一枚
写真提供:日本相撲協会